

【Press Release】

平成28年6月13日



国営越後丘陵公園
ECHIGO HILLSIDE PARK

6/11~6/19頃
まで展示予定

国営越後丘陵公園 越の里山館
生きた本物の「蚕（カイコ）」を飼育展示中！



かつて旧山古志村で養蚕を営んでいた
旧星野邸「越の里山館」において
本物の蚕（カイコ）を飼育展示中
（本年六月十一日（土）撮影）

謹啓 向暑の候、皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、国営越後丘陵公園内の越の里山館において、本物の生きた「蚕（カイコ）」の飼育展示を開始しましたのでご案内申し上げます。

- 旧山古志村で先進的に取り組まれていたかつての養蚕風景を「越の里山館」で再現。
- 新潟県内で唯一養蚕を営んでいる「朝日村まゆの花の会（村上市）」の協力を得て展示。
- 6/18（土）・19（日）には、養蚕のガイドも開催。（10：00～15：00開催）

皆様にはご多用中のことと存じますが、取材並びに記事掲載の程よろしくお願ひ申し上げます。

謹言

【配布先】長岡市政記者クラブ、新潟県政記者クラブ、他

【お問合せ先】

〒940-2082 新潟県長岡市宮本東方町字三ツ又1950-1

国営越後丘陵公園 越後公園管理センター 事業管理グループ 担当：松田・鈴木・山野・小林

電話 0258-47-8001 FAX 0258-47-8002

携帯 090-7847-5001 公園HP <http://echigo-park.jp/>

●越の里山館「蚕（カイコ）の飼育展示」

国営越後丘陵公園里山フィールドミュージアムに立地する「越の里山館」は、中越地震で被災した旧山古志村の古民家の部材を活用して、里山の暮らしを知ってもらうための展示・休憩施設として平成26年11月1日に開館しました。

旧山古志村における養蚕は、大正時代までが盛期で、その後、養蠶業が興り発展した歴史があります。

「越の里山館」は明治時代に建築された建物で、その当時から2階に養蚕のための広い部屋が設けられていたことから、養蚕に先進的に取り組まれていた時代の様子がうかがわれます。

このような歴史をもつ「越の里山館」において、本物の生きた蚕を飼育展示し、蚕と絹の歴史とともに、かつての里山の暮らしに触れていただこうと企画したものです。



●蚕（カイコ）の一生

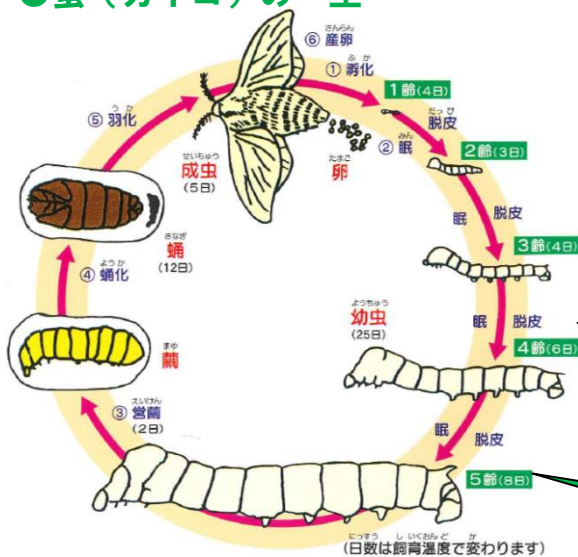
蚕は、卵→幼虫→蛹→成虫（蛾）の4つの形に変わります。

- ・ 現在展示している幼虫は、「桑の葉」を食べて大きくなります。4回眠と脱皮を繰り返します。

現在は4齢幼虫の状態

- ・ 幼虫になって約25日たつと、幼虫は糸をはき、約2日だからだを包み込む繭をつくりま

6/18(土)-19(日)のガイド時は5齢幼虫の予定



僕は今、もっと大きくなるために、頭を持ち上げて眠ってます

繭（まゆ）になるのは6月22日頃の予想

※繭になった段階で飼育展示を終了

●新潟県における「養蚕」と「まゆクラフト」

現在、新潟県内で養蚕が営まれているのは村上市朝日地区のみとなっています。農家数は7戸。その皆さまが「朝日村まゆの花の会」のメンバーとして、「まゆクラフト」の材料として使う分を主とした養蚕を営んでいます。

今回の飼育展示は、この「朝日村まゆの花の会」から蚕の幼虫を譲り受け、実施しています。

越の里山館における「まゆクラフト」の材料も、同会から提供を受けて実施しています。（6/19までの土日実施）



朝日道の駅内にあるシルクフラワー製作工房の作品

越の里山館で提供している「まゆクラフト」



●蚕（カイコ）と絹の歴史

蚕は、4,500年以上も昔から、中国で飼われていました。その当時から、繭から生糸をとって絹織物にする技術を持っていたようです。

2,500年前、絹織物は中国から他の国に盛んに売られていました。ペルシアやローマの商人達は、海を越え砂漠を超え危険な目に遭いながらも、美しい絹織物を求めて中国を訪れていました。商人達の通った道は、シルクロード（絹の道）と呼ばれ、やがて養蚕の技術は世界に広まりました。日本に伝わったのは1,800年ほど前のことです。